

4年以上ものコロナ時代の中で、今年は1824年に生まれたボヘミアの偉大な作曲家、スメタナの生誕200年を記念して、世界各国で“チェコ音楽の年”イベントが開催されています。

プログラムには、シューベルトの明るく朗らかなソナタを冒頭に、チェコの作曲家ドヴォルザークとスメタナの傑作を一曲ずつ取り上げ、後半はヴァイオリンとピアノのために書かれた親しみやすい小品を5曲選び、テーマ音楽などでよく知られた旋律も含めて、それぞれ色彩感や響きも異なる作品を聴き比べていただくと幸いです。

ヴァイオリン 石川 静

## Ishikawa Shizuka Violin Recital



ヴァイオリン：石川 静

4歳より才能教育でヴァイオリンの手ほどきを受け、小学生時代は鷺見三郎教授、鷺見健彰教授に師事。1970年に東京芸大客員教授としての任期を満了したマリエ・ホロウニョヴァー教授と共に当時チェコスロヴァキアへ渡り、同年秋よりブラハ芸術アカデミーに在籍。半世紀以上に渡ってヨーロッパを中心に世界で活動するヴァイオリニスト。ウィニアフスキー国際コンクール第2位、エリザベート王妃国際コンクール、クライスラー国際コンクールなど、多数の著名コンクール入賞歴を持つ。チェコ・フィルハーモニー管弦楽団、ベルリン国立歌劇場管弦楽団、ゲヴァントハウス管弦楽団、ヘルシンキ・フィルハーモニーをはじめ、世界有数のオーケストラと共演、日本各地のオーケストラの定期演奏会に出演し、ソリストとしての評価も高い。審査員として“ブラハの春”国際コンクール、コチアン国際コンクール、ザグレブで開かれるフルム国際コンクールに招聘された。芸術選奨新人賞、芸術最優秀賞を贈られている。収録活動にも力を注ぎ、40タイトル以上ものヴァイオリンレパートリーを音源に残し、スプラフォンから発売されたヨゼフ・ミスリヴェチェクのヴァイオリン協奏曲全8曲集に於いてはゴールデンディスク賞を受賞している。1997年よりブラハを本拠にするクーベリックトリオに加わり、近年はソロ及びピアノトリオの分野で若いヴァイオリニストへ、長年の実践と経験からのノウハウを伝達している。



ピアノ：ルーカシュ・クランスキー

ルカーシュ・クランスキーはピアニストの父、祖父は作曲家&音楽監督という恵まれた環境に生まれ、現在もっとも有望なチェコの若手ピアニストとして幅広く活躍している。ソリストとしてもロブコヴィッツピアノ三重奏団のメンバーとしても数々の国際コンクールを制し、ブラハの春音楽祭、ブラハ・ドヴォルザーク祭典、ヤナーチェクフェスト、アンカラ音楽祭、バーゼル室内楽の夕、ベルリン・コンツェルトハウスなどのステージに出演。最近指揮者としても活動を開始し、自ら弾き振りでオーケストラとピアノ協奏曲を共演するなど、幅広い分野で才能を発揮している。2018年にはハンス・フォン・ビューロー国際コンクールの指揮者兼ピアノ奏者“弾き振り部門”で第2位獲得。その延長でモーツァルトのピアノ協奏曲集など、ピアノから弾き振りで収録に取り組んでいる。5歳よりブラハ市立音楽学校でピアノを習い始め、ブラハ音楽院ではE.ボグニオヴァーのクラスで学んだ。ブラハ芸術アカデミーでは父、イワン・クランスキー教授のクラスに在籍し、博士課程ではチェコの作曲家ヤン・ヴァーツラフヴォジーシェクのピアノ作品研究に取り組み、卒業論文にまとめた。指揮法はブラハ音楽院時代、M.ニェムツォヴァー教授及びH.ファルカチ教授のクラスで学び、ブラハ芸術アカデミーではT.コウトニーク教授&レオシュ・スワロフスキー教授のもとで研鑽を積んだ。ブラハ市立高等音楽学院及び2018年からはブラハ芸術アカデミーでも後輩の指導にあたり、国内外のマスタークラスに招かれている。



文化庁 劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業

先着100名限定  
中学生無料ご招待

子ども2名(最大)に対し保護者等の同伴者1名以下/同伴する保護者は半額

※無料ご招待のお客様は、入場時に年齢確認を行う場合がございますので、身分証をご持参ください。

※延岡総合文化センター・野口遵記念館の窓口にて招待券を配布致します。公演当日、開演の1時間前より受付にて座席指定券とお引き換えください。お席は当方で指定させていただきますのであらかじめご了承ください。